

故和久井博会長の追悼特集



釋
博
陸

(年譜)

1941年 新潟県高田市（現 上越市）に生まれる。
 60年 新潟県立高田高等学校卒業
 66年 中央大学理工学部管理工学科土木部門卒業
 66年 ㈱福山コンサルタント入社
 74年 ㈱フジミック（フジTV系）入社
 78年 ㈱社会システム研究所設立
 87年 ㈱社会システム研究所 代表取締役社長
 97年 ふるさと上越ネットワーク設立 理事就任
 2005年 同 会長就任
 07年 ㈱社会システム研究所 代表取締役会長
 18年6月30日 逝去（享年76才）

(委員等) ・東京新潟県人会理事（広報委員）・上越市景観条例策定委員会幹事（1997）
 ・上越市「食料・農業・農村」基本政策審議会委員（2005～）

本年6月30日にご逝去された和久井博会長は、21年前にふるさと上越ネットワークの設立に携わり、平成17年からは、会長として、本会をリードし、本会の発展にご尽力されてこられました。あの優しい眼差しで、総会、講演会、春秋の交流会、毎月のサロン、勉強会、上越特産品の取り寄せなど多彩な活動を盛り上げていただきました。おかげさまで、ふるさとを離れた私たちも、ふるさととのつながりを深めることができました。

故和久井博会長を偲び、ここに追悼特集を刊行し、感謝申し上げますとともに、心より、ご冥福をお祈り申し上げます。

平成30年8月17日（七七日忌）

ふるさと上越ネットワーク 一同

目 次

和久井博会長のご逝去を悼んで	上越市長 村山 秀幸	2			
和久井博さんを悼む	ふるさと上越ネットワーク初代会長 佐久間 昇二	2			
追 憶	ふるさと上越ネットワーク第二代会長 太田 四郎	3			
石黒 繁子	・ ・ 4	新山 芳子	・ ・ 8	岡村 普	・ ・ 11
加藤 福子	・ ・ 4	藤田 香代	・ ・ 8	小坂 恵美	・ ・ 11
栗田 修行	・ ・ 5	古川 明	・ ・ 8	中村 眞和	・ ・ 12
佐藤 光子	・ ・ 5	堀井 靖功	・ ・ 9	藤沢 勝一郎	・ ・ 12
佐藤 隆介	・ ・ 6	宮下 隆明	・ ・ 9	勝島 敏明	・ ・ 13
田端 宗壽	・ ・ 6	村椿 秀隆	・ ・ 10	伊藤 利彦	・ ・ 14
中島 幸雄	・ ・ 7	井上 信子	・ ・ 10	松川 太賀雄	・ ・ 14
(付録) 和久井さんとの最後の交信メール (一部)	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・	15

和久井博会長のご逝去を悼んで

上越市長 村山 秀幸

本年 6 月、ふるさと上越と我が国の将来を思い描きながら、志半ばにして急逝された和久井博会長の生前を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

和久井博会長は、平成 9 年のふるさと上越ネットワークの設立当初から理事として会の運営の中核を担われ、平成 17 年の会長就任以降は、同会を牽引する立場として、ふるさと上越の発展に多大なる貢献を果たされました。

会長に就任された当時、上越市ではNHK大河ドラマ「風林火山」や「天地人」の放映を好機ととらえた交流人口の拡大に取り組んでおり、和久井会長には、自ら「ふるさと越後大使」として首都圏における当市の観光PRに奔走いただいたほか、市の特産品の通信販売を行う「ふるさと市場」の仕組みを構築されるなど、多方面からご支援とご協力を賜りました。

なかでも、平成 27 年 3 月の北陸新幹線上越妙高駅開業に際しては、和久井会長ご自身が中心となり、「北陸新幹線でふるさとに帰ろうツアー」を企画され、J ネット会員の皆さんを始め、当市にゆかりのある方々 200 余名とともに当市にお越しいただき、地元市民と交流されていたお姿が、感謝とともに、まるで昨日のここのように思い出されます。

ここに、上越市の発展を支えていただいたご生前の偉大なる功績を讃え、心から御礼を申し上げますとともに、和久井会長が貫かれたふるさと上越への想いをしっかりと受け継ぎ、会員の皆様と共に当市の発展に努めてまいりますこととお誓い申し上げ、追悼の辞といたします。



和久井博さんを悼む

ふるさと上越ネットワーク 初代会長 佐久間 昇二

私をJ ネットの初代会長に祭り上げたのはほかならぬ和久井さんです。発足後 実際のJ ネットの活動は和久井さんが中心になって動き 私は飾り物の会長に収まっておりました。

和久井さんはJ ネット生みの親の1人であり、かつ、今日までJ ネットを強く支えてこられました。J ネットは和久井さんが築き、育て、残してくれた大切な財産です。その最大の功労者を 今 失ったこととなります。痛恨の極みです。

凄い人だなー と言うのが和久井さんの第一印象でした。 兎に角 やたらと顔が広い。その上 人を動かすのが誠に上手。取り仕切りが実に巧い。男から見ても惚れ惚れするところがありました。 それだけに色んなことがいろんな方から和久井さんの処へ持ち込まれる。それを嫌な顔を一つせず相談に応じておられました。それが和久井さんの過労となり、いつの間にか病に侵されたのではないかと思います。残念です。

一言でいえば 和久井さんは
* 仕事人として 「豪」の人 * 私の面では 「粹」の人
でした。

まだ ニコニコしながら和久井さんが語りかけてくるような気がしてなりません。
これまでのご交誼に深く感謝を申し上げ ご冥福を心からお祈り申し上げます。

.....

追 憶

ふるさと上越ネットワーク 第二代会長 太田 四郎

7月の初め、和久井さんのご不幸の報に接し、びっくり致しました。かねてから御病氣療養中とお聞きしていましたが、まだまだ私よりもひとまわり以上お若いのに、世の無情を痛感しております。

和久井さんとは平成9年のJネット設立メンバーの会で初めてお会いしましたが平成17年3代目会長をお引継いただき、種々の交流事業や勉強会など新事業を進められ、Jネットの活性化に御尽力されました。平成17年は名古屋万博「愛知地球博」の年で野口大先輩と御一緒され、ご案内いたしました。暑い夏でした。また特に名古屋サロンや大阪サロンには毎回出席され、その後淡路島一泊旅行したこともいい思い出でした。また有馬温泉とともに三大温泉の一つである岐阜県下呂温泉をお約束したのになかなか残念でした。

平成27年3月の北陸新幹線開通の祝賀会や平成28年サミット前の伊勢神宮参拝や榊原温泉旅行など公私にわたり楽しい思い出でした。

昨年4月Jネットのお花見会のあと、うみてらす名立で皆さんと合流し、翌日上越火力発電所を見学していただいたのが最後になりました。時には外国貿易のお話など巾の広い勉強をされておられるなど感心したこともありました。和久井さんとは公私にわたりお付き合いして、人生楽しくなるような、お人柄でした。

はるかより心からご冥福をお祈り申し上げます。



さようなら、博ちゃん

旧高田市仲町三丁目出身 石黒 繁子

そもそも和久井さんにお逢いしたのは中学生の時でした。我が家が旧高田市幸町に引っ越した時、和久井さん宅のすぐ近くでした。又、私の兄と(元)大町中学校で同級生でした。和久井さんと兄は学校のIQテストでトップを競ったと後になって和久井さんから聞きました。

和久井さん宅にも伺って妹の信子ちゃんと遊んだ記憶があります。その後、又、引っ越ししたため疎遠になりました。大人になって再会したのは東京でした。「越後高田雪の会」の集まりや新潟県人会の広報委員会、そしてJネットでご一緒になりなつかしい話をしました。最近の和久井さんの健康状態には心を痛めており、時々TELでお話を伺い、私が看護師だったこともあり病気の事をいろいろ話合いました。そのうち連絡がつかなくなりそして「和久井さんご逝去」の訃報が届きました。辛い治療にも耐え、必ず元気になって下さると信じておりましたのに…。お疲れ様でした。和久井さん、イヤ最後位はいつも通りの呼び方にしましょう。「博ちゃんいろいろ有難うございました。ゆっくりお休みください。」「adieu」永遠にサヨウナラ。

.....

故和久井博様に捧げる感謝のことば

加藤 福子

どんな時も穏やかで「ああそう」「いいよ、いいよ」と受け入れてくださる懐の広い和久井さん、多くの方から敬愛されていました。私ひとりでコンサートを催した時、「お元気ですか」のコーナーで掲載していただき、心細さも吹き飛びました。今年1月にも、今秋のお寺でのコンサートを報告すると「加藤さんはお寺が好きなんだネ」、「でもこの年齢になるとそろそろお寺のことも考えなくてはね…」とぼつりとおっしゃったことが心に残っております。本当にお世話になるばかりでした。今から十数年前に有志で雨飾温泉へ行った晩に、独身の義弟の危篤の知らせが入りました。翌朝、満天の星が輝く朝露の中を私を車で一番列車に間に合うよう、白馬駅まで車を走らせてくださったのも和久井さんでした。そして我家のラブラドルレトリバーのディーナ(黒)の子どもが和久井家の三番目の息子としてむかえていただき犬の親戚ともなったのです。名前は「しゅんちゃん」。家の皆さまに可愛がっていただき、幸せな時間を共に過ごしたことでしょう。そのしゅんちゃんは博御主人様を待っていて共に、虹の架け橋を渡り天上の花園へと旅立っていったことでしょうか(インデオの伝説に愛された動物は愛してくれた人と共に「虹の架け橋」を渡り天国へ行くという言い伝えがあります。)

和久井博様の御冥福を感謝のことばと共に祈り申し上げます。

.....

和久井会長の逝去を悼む

上越タイムス社前社長 栗田 修行

和久井さんとは同期（昭和 35 年 高田高校卒 12 回生）で、一昨年 10 月に「三十五会 75 歳記念総会」を彼は東京の世話人、私は地元上越の世話人で米本陣にて盛大に開催したのですが、その後体調を崩され、病氣療養中と聞いていましたが、6 月 30 日突然の訃報に接し唯々残念でなりません。

彼は長きにわたり、ふるさと上越ネットワークの会長をされていたので、私が上越タイムス社の社長の時に、色々相談にのってもらいました。

地方の人口減少が加速的に進む中、当時上越に北陸新幹線の開業が 2 年後に迫っていたので、交流人口を積極的に呼び込む必要性を強く感じていました。

具体策として、まず首都圏で暮らす上越出身者との人、物、情報の交流を活発化する為に、地域紙として何ができるか。彼にいろいろアドバイスを頂きました。

それを参考にまず、日刊紙上越タイムスに首都圏版を設けました。其の後、相互発信の意味から実現したのが「月刊上越」です。

出身者向けの新聞発行は全国初のことです。そして J ネットさんからは全面的に協力頂き、当初から全会員分のご購読を頂きました。

彼の J ネットへの愛着と人脈の広さには常々感心していましたが、本当に惜しい人を亡くして残念です。心からご冥福をお祈りいたします

.....

見えないところで

佐藤 光子

和久井会長は懐が深く、気配りの方です。私は、十年前に高田で〔高野喜久雄追悼・蓮の花コンサート〕を企画しました。日本の代表的合唱組曲「水のいのち」は、高田農業高校で教鞭を執っていた高野氏が、高田で詠んだ詩が歌詞です。

高田三郎・高野喜久雄コンビの多くの合唱曲を毎年歌っている、東京の「コーロソフィア」合唱団に来ていただき、高田の合唱愛好者と合同で歌い、地元の人達にその曲の素晴らしさ、高田の地で生まれた歌であることを認識し、誇りに思っただけだったので。

「合同で歌う？高田の合唱事情も知らない、よそ者の佐藤は、何を考えているんだ。」と、合唱関係者が噂をしているのを知り、すっかり落ち込んでしまいました。

「大丈夫だ。必ず成功する」と和久井さんは励ましてくださったのです。その通り、当日は、1500 席の文化会館の 1200 席も埋まったのです。

これは、上越教育大の後藤丹教授、「上越詩を読む会」、「文芸たかだ」、合唱団「ぶらんこ」の他、この企画を記事にしてくださった新潟日報、三日続けて寄稿文の欄を私に提供された上越タイムスなど、多くの方たちのお力によるもの。そして、和久井さんの、私には見えないところでの応援があったからです。

パンフレットは、高野氏のことを語り残せる資料にするため、私が担当し、和久井さんも、円周率について書いてくださいました。

和久井さんとの出会いに、感謝致しております。

.....

玉鯰先生

佐藤 隆介

日本環境学会が正式に発足したのは昭和五十年春だった。会の目的は、「広く世界のあらゆる環境を視察し、探求し、吟味し、独自の環境体系の確立をはかる」と壮大だが、会員資格は簡明で「男であること」。

当初の会員は某国立大学教授でモダンアート作家の鮫鱈先生、コピーライターで弓道家の泥鯰先生、それに雑文処「鉢山亭」を営む虎魚こと小生の計三名。

名称は大仰だが、その実体は「飲み歩き食い歩き」の同好会。七年前に全員古稀を超えて自然解散するまで日本全国をどれだけ旅したことか。創設五年目に初めて一人ふえた新会員が和久井博だった。

「男であること」は簡単ではない。酒の飲み方に一流の見識と品格を感じさせない奴は男とはいえない。飯の食いや料理の知識に関しても同様。きちんとした日本語が話せず、ハガキ一通まともに書けない輩も論外。

結局、何十人もの入会志願者が「男とはいえん！」で全部ボツとなり、唯一人の例外が玉鯰先生である。学会員は「見た目はイマイチだが食えば味は抜群の魚」の名を通称とするのが決まりで、和久井博には玉鯰（ぎょくねん）の雅号が贈られた。「多摩のナマズ」だ。

玉鯰に置いていかれた三人の会員も遠からず後を追う。彼岸で四人が揃ったら、また環境学会を復活して宇宙の果てまで飲み食いの旅を続けるとしよう。

玉鯰先生、ちょっと待っていてくれ。

.....

惜別 朝市の匂い

田端 宗壽

若い友人の訃報に接する事は悲しい。

初めての出会いは同窓会。凜々しい法被姿で会員の世話を焼いておられた。すでに一国一城の主の風格と優しい眼差しが印象に残っている。

その後、Jネットをはじめとする故郷の会合などで親交を深めた。僅か交差した人生の共通する話題は、旧き佳き時代の高田の話しだ、現在の世界館も含め4館あった映画のこと、スキー煎餅、魚にしき、小川の白羊羹と話は尽きない…。

やがて新幹線が開通され、帰郷される毎に新鮮な朝市の珍味が届けられる様になった。

なかでも「浅つき」は田舎の味噌を付けてかじると酒の摘まみ、そばの薬味として絶品であった。

グルメ、銘酒の会、パーティーなど欠員が出るとお誘いを受け嬉々として参加した。

私のあまりの暴飲暴食ぶりを心配されてか、ご自身が利用されている、同窓生の有名クリニックに私を連行した。見事にガンが早期発見され、現在治療進行中である。

逝去された和久井君は多くの事を語り、教えてくれました。

私は和久井博君のために、まったく何もしていません、それが残念でなりません。

.....

和久井会長との思い出

中島 幸雄

私が J ネットに入会したのは、上越市東京事務所が日比谷公園の市政会館にあった頃です。和久井会長との交流は、この事務所が廃止され澁谷に事務所が移った頃からです

その頃私は仕事上、国交省や地方自治体の都市再生整備計画などに関係しており、和久井会長と話し合いを度々していました。上越市の外部協力を如何にするか、如何なる体制が必要かなどのテーマです。

新潟市でも市を外部から支援する新潟市サポート倶楽部が平河町の日本都市センター会館の新潟市東京事務所内にあります。その関係者にその内容を聞き、参考にしようと考えたのですが、実現に至りませんでした。上越市への協力と実現とのギャップに悩んでおられたのが、記憶に残っています。

毎月のサロンでは、場所の選定にも苦勞され2～3回場所が変わり現在に至りました。集まったメンバーの楽しみにも気を配られ、各種銘柄の日本酒や料理を揃えて頂きました。ANA 機体整備工場見学、日本銀行および貨幣博物館見学、横須賀軍港めぐりなどの勉強会でも終了後 地元の店で楽しいひと時をすごしました。

数え切れない思い出を残して頂きました。本当にありがとうございました。

また胸中にあった企画、計画など実現出来ず病床につかれ、残念に思われたことでしょう。

和久井会長と私 {旧制高田中学} は高田高等学校の同窓です。校友会東京支部の総会で校友と盃を手に持ち談笑されている姿が目につかびます。惜しい人です。

ご冥福をお祈り申し上げます

.....

Jネットに尽力下さった和久井さんに有難うとさようならを

新山 芳子

母校の歴代同窓会長が理事を務め、私も上野の県人会館で行われる第2木曜日のサロンに何度となく参加させていただきました。私の手作りのつまみに、有難うね！といつも笑顔で返してくださいました。

上越にゆかりの深い偉人さんを偲ぶ勉強会、ハイキング、春秋の交流会に高校四人組で参加させてもらい、私の人生の思い出を深めていただきました。もう逢えないんですね。

.....

和久井会長にお別れを

藤田 香代

本当に、本当に思いもかけない事でした。体調が思わしくない事は、存じて居ました。それにしてもこんなに早くお別れしなければならなかったとは、考えもしませんでした。

思えば、私としては長いお付き合いでした。まだ運営委員会の会場が、日比谷公園の赤いレンガのビルの中にあった頃、前々高田北城同窓会東京支部会長でいられた、関根咲子会長のお供で、何の予備知識もなく、何の気なしに傍聴させて頂きました。そしてはまりました。それまでにお仕事以外で、殿方があれほど熱く、やさしく議論されるのを見た事が無かったからです。

以来十数年 会長はじめJネットの先輩方の熱意に押される様に、それまであまり関心のなかった「ふるさと上越」の諸事情、歴史等々、教えて頂きほんの少しばかり勉強もして、至福の時を過ごさせて頂きました。

今頃は、高田のお城のまわりによく似た極楽の蓮池の上で、あの博識でいらした、小林直太先生と軽妙なやりとりを楽しんで居られるのでしょうか。亦あの親友で名パートナーでいらした岡村博己さんとも再会なさる事が出来たのでしょうか。

会長さん亡きあとのこの世は、淋しくて、悲しいけれど、今はただただご冥福をお祈り申し上げるばかりです。

.....

和久井さんを偲んで

古川 明

和久井さん、貴兄との出会いと思い出を書かせていただき、追悼とさせていただきます。私は就職後地方で専ら機械を相手に半生を過ごしたため、東京に戻って来たとき半ば不安でした。そんな中、高校同級生の故岡村君らはすぐ高高同窓会やJネットに私を誘い、旧交を温めると共に新たな出会いへと導いてくれました。和久井さんとの

出会いはJネットが嚆矢ですが頻繁にお会いすることとなったのは岡村君の強い誘いで大先輩の小林直人先生主催の新技术情報懇談会、通称小林会に途中から入れて頂いてからです。この会は異業種の皆さんが月一回2時間の勉強会を行い、その後2時間お酒を楽しみながら懇談するというものですが、私などはこのときの雑談が楽しみで参加を続けていたようなものでした。和久井さんは当初からの参加で専門分野のみならずコンピューターにも精通、その上歴史や地理、あるいは海外経験も豊富で海外事情にも通じ、特に私が驚嘆したのは彼の交遊範囲の広さであり、その話術の巧みさで常に話題の中心の一人でした。彼のこのバイタリティが新会社の設立とその発展の基となったことは疑いのない事実でしょうし、これからも、もっともっと活躍できる人を失った事は私達にとっても正に痛恨の極みです。彼はきっと旅先でも、小林先生共々中心となり、先に旅立った小林会やJネットの仲間達と酒を酌み交わしつつ愉快地過ごしているのではないかと思われてなりません。

.....

前島密が取り持つ縁

郷土の偉人“前島密翁”を顕彰する会 堀井 靖功

中学時代、和久井さんの幸町のお宅に遊びに行ったり、小生が頸城観光(株)当時、「Jネット」のお花見バスツアーや上越地域の小学校の東京研修旅行の講師を無理やりお願いするなど、いろいろお世話になった。

しかし何とんでも『ご縁』だと思えることは、石黒康嗣さんの取り持ちで和久井さんに郷土の偉人“前島密翁”を顕彰する会の副会長に就任いただいたことである。後期高齢者のお遊びのつもりの顕彰活動が、いつの間にか地域を巻き込み、全国発信できるまでになった。自ら県人会や「Jネット」の会で積極的に前島密を取り上げ、また陰に陽に東京からふるさと上越【前島密翁を顕彰する会】へ寄せられた支援こそが、当会がここまで継続し活動できた大きな力となった。

和久井さんの「やさしいまなざし」での支援に改めて感謝し、併せて平成31年に迎える前島密没後100年の記念誌発行を必ず成し遂げることをお約束し、お別れの一言とします。

.....

和久井さんの思い出

宮下 隆明

和久井さんは故郷の大先輩であり、高校の大先輩でもありました。亡くなられた翌日に樫野さんからいただいたメールで知り、大変驚きました。Jネットの月例会が渋谷から湯島へ移り、勤務先の三鷹から遠くなってからは、なかなか参加できずお目にかかる機会が減っていました。時折、高高の同窓会関連行事ではご一緒できましたが、

それも体調を崩されてお休みされることが多く、気になっていた矢先の訃報でした。

若輩者である私のことも気にかけてくださり、2014年1月開催のJネット文化講演会に講師として呼んでいただいたのも和久井さんでした。ちょうどその前年8月の上越リージョンプラザで国立天文台の「上越清里 星のふるさと館設立20周年記念講演会」の開催数分前に電話をいただき、何だかよくわからないまま安請け合いしてしまったかなと、あとになって反省したことも懐かしい思い出です。国立天文台が参加している、TMT（口径30m超大型望遠鏡）の国際開発プロジェクトの募金にJネットの皆さんのご支援をいただいたのも、和久井さんの後押しが大変大きなものでした。プロジェクトは当初計画から遅れ2027年完成の予定で建設準備を進めています。TMTの完成はまだ先としても、ハワイ島・マウナケア山（4200m）の山頂にある「すばる望遠鏡」を和久井さんにも皆さんと一緒に見学いただこうという計画は果たせなくなりました。いつの日か、Jネットの皆さんと一緒にマウナケアの山頂に立てればと思い、ご冥福を祈ります。

.....

和久井会長を偲ぶ

村椿 秀隆

サラリーマン定年延長（65歳）を尾張旭で迎え、東京でアルバイト開始の時期、Jネットに参加させて戴いたのは、2012年5月9日渋谷と手帳に記録がありました。私ごときに和久井会長から記事を依頼された事と、サロンで毎回皆さんに声をかけられていた事に感心しておりました。和久井会長、ありがとうございました。

.....

兄 博

井上 信子

父の弟「ひろし」が幼い時になくなったので、祖父が、孫に博と名付けたとか。父と祖父の2人が「父親」で兄博は、育ったと思う。祖父は、ラジオ店やスキー店を体験し、博にはラジオ作りやカメラなどの手ほどきを。博が鳩にのめりこんだ時には、たみ1枚より広い小屋を博と祖父で手作りした。鳩とカメラを博はとても大切にしていた。

また、博が高校時代自動車部にいて、車の免許は、高校を休んでとったようだ。車の運転がしたくて、したくて、ブローラー販売店の碧空（あおぞら）の配達を旧妙高市あたりまで請け負っていたようだ。碧空のしんちゃん（上級生）はしろ（犬）をとっても可愛がり、いつものろと一緒にアイスキャンディーを犬とシェアしていた。のちに博がしゅんすけ（愛犬）を可愛がったのもしんちゃんのおかげ？

祖父は12歳くらいで東京の丸善で小僧に。器用だったこともあって、高田へ戻ってそれなりの事業をしたようだ。

博は、後に、会社に、学歴がなくてもよい仕事ができる人が多くいると。学歴のことで引かないでがんばってほしいと語っていた。

博がJネットで長い間みなさんにお世話になり、とても幸せな日々だったと思う。まだやりたい事はいっぱいあったようだけど。いろいろお世話になりありがとうございました。松川様、そして故人となられた岡村博己様にはことさら。



和久井会長を偲ぶ

岡村 普

元々、ボランティアとか「〇×の会」のような類に一切関与しない私が、ここまでJネット更に校友会等に関わったのは、和久井会長のお陰（せい）であります。私にとって故郷や母校は、封印するもの、関わらぬもの、できれば自分の存在を忘れていたきたいものでした。その理由はたいしたことではなく、強いて言うなら「面倒くさい」だけです（笑）。

Jネットもその存在は認識しておりましたが、長らく我関せず、雲隠れを決め込んでおりました。それが何かのきっかけでたまたまサロンとやらに顔を出したのが運の尽き？もぐらたたきにあったかの如く、引っ張りこまれたのであります。そもそも同郷の集まりとはいえ、ほぼ全員初めての方ばかり。それなりにアウェイ感を以て臨んでおかしくない状況で、気さくに声をかけてくださったのが和久井会長。それでも何回かすると飽きてきてそろそろフェードアウトかな、ってところで運営委員として絡め取られてしまいました。もう逃げられません。さらに「出身高校どこ？」→会長の後輩という事実→「校友会も手伝って」…こちらも絡め取られました。

これひとえに会長の生まれ持った人心掌握術、霜越先輩に言わせれば「人たらし」によるところだと思えるのです。贅沢を言うならJネットとか校友会ではなく、ビジネスのボスとして巡り合いたかった、貴方の部下になりたかった。そう思っています。和久井会長、ありがとうございました。

.....

ご冥福をお祈りします

小坂 恵美

つい先日までお会いしていた和久井会長の訃報を聞き、言葉もありませんでした。私は20代で大阪から東京に引っ越し、地元の人たちとの交流も大事にしたら良いよと

のことで J ネットに参加させていただきました。その後、運営委員として活動するときに会長をされていた和久井さん。いつも穏やかでニコニコされていて、温かい雰囲気、頼りになる存在でした。気を使っていたり、飲み連れて行っていただいたりもしました。

まだまだ、例会や高田への旅行など一緒できると思っていましたので、残念でなりません。

今は、先立たれた J ネット会員の皆さまと、楽しく飲み明かされていることと想像しています。心より、ご冥福をお祈りいたします。

.....

和久井さんを偲んで

釋 智真 (中村 眞和)

定年を間近にして、大学や高校の恩師を訪ねたりしているうちに、小学校時代の友達にも会いたくなり、1999-9-9 から始めた「友をたずねて3000日(会報 No.20 他)」の旅をしている時、インターネットで J ネットを見つけ、2005-3-9 (水) サロンに初めて参加した。和久井さんの紹介で翌月からは、新技術情報懇談会にも参加することになり、その後は毎月2回、東京に出掛ける機会を得ることになった。この情報懇談会はいろいろな分野の専門家が集まる異業種交流の場であり、聞く人に問題意識があり聞く耳を持っていれば得るところの多い会である。

その年の5/28 (土) 和久井さんは、J ネットの第三代会長に就任。以来13年余、和久井さんのために J ネットの発展に協力してきた。3年余り前に「J ネットの会長を10年以上も続けるのは有能でも良くない。2年後までに後継者を発掘・育成して引き継ぐべきである。次期会長は、和久井さんの推薦する優秀な人であっても、急に代わると一般会員が対応できず会の発展が停滞することが想定される。少なくとも1年前から副会長などの立場でサロンなどに参加し、多くの会員から信頼されていることが望ましい。和久井さんが辞める時は私も一緒に辞めるから。」と提言したら、「中村さんには、後5年留まって次期会長への引継ぎを見届けてほしい。」と頼まれた。

お互いに尊敬し信頼していた気の合った良き友を亡くし、生きがいの一部を失った感じであるが、我が人生の終盤を彩った賢友に感謝し御冥福をお祈りします。

.....

和久井博君を偲んで

藤沢 勝一郎

和久井君、君とは高田市立大町中学校の同級生で、隣のクラスでした。中学校卒業後は、進路の違いもあり別々になってしまいましたが、平成9年7月の J ネット設立総会以来、理事として一緒に仕事をしてきました。

特に、上越市が日比谷の市政会館内にあった東京事務所を閉鎖した時は、君の会社内にJネット事務局を置いてくれ、君が会長になってからは、上越市役所から実質的な運営を移管された時もこれを受け、現在のような運営体制に整備してくれました。

君は、郷里の偉人前島密翁が正当な評価を得ていないことも気にしていて、上越市内に翁を顕彰する会が発足・横須賀市浄楽寺での墓前祭に出席すると聞くやJネットも勉強会で行こうと提案、平成26年以来それが続いています。

今年も無事終了したと報告したら、4月23日深夜「勉強会は、Jネットの活性化の一環で始めましたが、藤沢さんのおかげで基幹的なイベントになりました。感謝しています。私も体調がイマイチでイライラしていますが、是非参加できるようになりたいと主治医の指示を守っています。……」が、君からの最後の勉強会メールになってしまいました。

社長として国交省の仕事をしていた時は、何か月も深夜まで打ち合わせ等が続き、そのため赤坂に1Kの部屋を借りるなどしてご苦労されたとも聞いており、そんな時でも時間ができると当時大蔵省主計局で連日午前様が続いていた同級生の宮越馨氏(その後、上越市長)を誘い、飲みニケーションをしていたというお酒好きは、生涯変わらなかったですね。

また、私の母校 高田工業高校(現上越総合技術高校)同窓会東京支部が、創立100周年を数年後に控えながら休眠していることも気にしてくれ「お前が中心になって立ち上げろ！必要な協力はする。」と言って熱心にバックアップしてくれたからこそ、平成22年11月に同窓会関東支部として、再発足し100周年にも間に合いました。

いろいろ本当にありがとう！ 安らかにお休み下さい。

.....

故和久井会長を偲んで

勝島 敏明

つい最近までお元気な声で電話に対応くださった和久井さんが、こんなに早く忽然と私共の前から姿を消されるとは、だれが想像しただろう。いずれまたお元気に姿を見せるだろうと思っていたので、残念でならない。

和久井さんとの出会いは、私が直江津高校関東支部長として、Jネットの活動に参加するようになってからである。Jネットには高田出身の方々が多く、私のように直江津出身者にとっては、多少、肩身の狭い感があった。直江津高校出身者である今井副会長さんに替わって、私が、副会長になり、太田会長の後任に和久井さんを推挙したのを覚えている。

和久井さんは故郷のことに詳しいだけでなく、博学で物事をよく知っておられ、その慧眼に感嘆していたのは、私一人ではなかろう。そのうえ、リーダーシップもあり、人を包み込むような温かさがあった。

あまり細かなことをギシギシと決めなくともよいのではないかとも、よくおっしゃった。人間の奥深さを感じさせる人だった。

なかなかサロンなどに参加できないことが続くと、「都合のつくときに、参加してくれば良い」といった対応をして下さる。その後、直江津出身の会員も徐々に増え、「勝島さんが副会長でいてくれているので、高田・直江津の融和も進んでいる」として、感謝の言葉をいただき、恐縮した。

和久井さんという財産を失い、Jネットは大きなダメージを受けたが、この試練を乗り越えてさらなる発展をすることが、和久井さんに対する恩返しでもあろう。和久井さん、安らかに眠りください。

.....

もう一声を

伊藤 利彦

「これ、伊藤さんにぴったりだな」和久井副支部長が差し出したのは、上越市の温浴7社持株会社代表の公募要項でした。高校の東京校友会幹事会の準備を兼ねた飲み会の席でのことです。酔っぱらった私は、うかつにもYESと言ってしまい、その後4年半、故郷上越への単身赴任となりました。おかげさまで、楽しき日々となり、上越最真に仕上がりました。その間、何度か陣中見舞いにやってきてくれた和久井さん。わかっている人だなあとしみじみと思いました。

「そろそろ戻って来ないか」3年ほど経ってから、今度は、帰京を促す。居心地のいい上越には未練がありましたが、そこはまた、酒の力でねじ伏せられてしまう。なにせ、酒の飲み方のうまい先輩なので酒の土俵に引きずり込まれては、こっちに勝ち目はありません。往きも帰りも和久井さん次第の4年半でした。

「この人はすごい人なんだよ」が口癖で、会う人を好きにさせるのも不思議な特技でした。人の呑み方も天才なのです。こんな和久井さんが急にいなくなると、いきなり、暗くなって、雪の降る小学校の運動場にひとり置いていかれたようで、寂しくて不安でいっぱいです。

Jネットのことをはじめ相談したいこともたくさんあります。いい酒といい飲み助たちを用意しておきますから、そっちの世界からの、もう一声を待っています。

.....

暑き日に好漢ひとり旅に出づ

松川 太賀雄

22年も前のことになりますが、ふるさと上越ネットワーク発足にあたり、準備に1年以上もかけて、和久井さんと私が、日比谷公園の市政会館内の上越市東京事務所でお手伝いをしたことを思い出します。

発会式は日比谷公園内の松本楼、設立総会は市ヶ谷・アルカディア。設立時の会員数は7百人弱でしたが、3年目には1千人を超えて胸を撫で下ろしたものです。

発足して間もなくスタートしたサロンには、高齢の婦人お二人が毎月、郷里の思い出を語り皆と会うのを楽しみとみえられた。

ふるさと訪問は2年目から実施。高田公園の芝生にビニールシートを敷いてのお花見が定番で、途中からの降雨で岩関花屋さんの教場へ避難したことも懐かしい。設立10周年記念に公園に植樹した桜の木も、また会員有志が植樹した中央病院前の50本以上の桜も見事な景観になりました。

上越市東京事務所閉鎖のピンチには、和久井さんは自社にJネット東京事務局を置き、サロンの場を提供、本当にありがたかったです。

初代会長は佐久間さん。2代目の太田さんから私は、次期会長を迫られたが、上越へ帰ることになり、和久井さんに懇願、会長を受けて頂きました。

ふるさとへの最高の応援は「ふるさと産品を多く買うこと」が和久井さんの持論で、Jネット通販の拡大に意を注いだのですが売上げは伸びず、会員数の減少と合わせて気掛かりだったことでしょう。

和久井さん、発足以来の長い間、本当にありがとうございました。あなたの大らかさと機知にとんだアイデアは貴重でした。

暑き日に好漢ひとり旅に出づ

今、どのあたりに居られるのでしょうか。伊藤さんはじめ、Jネットの活動を見守ってください。心からご冥福をお祈りいたします。



(付録) 和久井さんとの最後の交信メール (一部)

(1)	From: 和久井 博 To: 中村 眞和 Subject: Fw: おたより、お元気ですか3月号です 無理なお願いで恐縮です。修正したものを宮里さんに送ってください。 From: Albatros To: 和久井博 お元気ですか、今回は杉臣さんの原稿で2Pです。 宮里	Sent: Saturday, March 24, 2018 4:58 PM
(2)	From: 和久井 博 To: 岩関順雄様 ; 松川 太賀雄様 Cc: 中村 眞和 Subject: Re: 跳ね馬 松川さん、岩関さん はねうまの写真を「たより」に載せたいので、中村さんに転送してください。 勿論、句の紹介もします。	Sent: Saturday, March 24, 2018 5:03 PM
(3)	From: JN3 中村 眞和<A7> To: JN 和久井 さん(スマホ) Subject: Fw: おたより、お元気ですか3月号です お元気ですかは、2P分しかなく、標題もないので、松川さんの「はねうま」の写真はまだ見ていませんが、「簡単な文章(俳句も含めて)」+「はねうま」の写真+「標題」でP1+P2として、合計4Pになると完璧ですね。	Sent: Saturday, March 24, 2018 8:47 PM

(4)	<p>From: <u>和久井博</u> Sent: Saturday, April 14, 2018 8:17 PM (観桜会の前日) To: <u>松川 太賀雄</u> Cc: <u>伊藤利彦</u>; <u>中村真和</u> Subject: 明日はよろしく! 私は水曜日に入院してアルブミンや血小板などの不足している血液成分の点滴と輸血で忙しく、他のことを考える余裕がありません。処置は順調で今のところ来週の木曜日に退院の予定です。 高田公園の桜は散ってしまった様ですが、1泊目の牧区では満開の桜に逢えると良いですね。 なかしま食堂の交流会は桜は無いけれど盛り上がって欲しいですね。 とにかく、有意義な会になればと祈念しています。</p>
(5)	<p>From: <u>和久井博</u> Sent: Friday, May 11, 2018 10:22 AM (サロンの翌日) To: <u>伊藤利彦</u> Cc: <u>松川 太賀雄</u>; <u>JN3 中村 眞和</u> Subject: Re: 報告 今、リハビリルームで多摩の緑を眺めながら盛会のサロンを想像して満たされた気分?で、スクワッド等の運動をしています。私の病状も一進一退ですが、何とかレベル4の癌を乗り越えて復帰し、サロンで皆さんと一献傾けたいと思っております。</p>
(6)	<p>From: <u>和久井博</u> Sent: Tuesday, May 15, 2018 6:16 PM To: <u>JN3 中村 眞和</u> Subject: Re: 不在の御連絡(自動返信) 和久井です。了解です。今回はどちらまでお出掛けですか。羨ましいですね。私も何とか出歩けるようになりたいと思っています。 2018/05/15 17:22、<u>JN3 中村 眞和</u> のメール: 不在の御連絡(自動返信) 5/13(日)~20(日)旅行のため不在となり、返信等のメール対応は、5/21(月)以降となりますので、よろしくお願ひします。 中村眞和</p>
(7)	<p>From: <u>JN3 中村 眞和<A8></u> Sent: Wednesday, May 16, 2018 9:05 AM To: <u>JN 和久井 さん(スマホ)</u> Cc: <u>JN0 松川太賀雄 さん</u>; <u>JN3 伊藤利彦 さん</u> <追伸>今週1週間は、仙台に宿泊しています(高さ100Mの仙台大観音の隣のホテル)。半分は観光、残りの半分は休養です。昨日は松島に行って観光船で島めぐりをしていました。震災で津波の被害を受けた町は、まだ復興中であり大規模な工事中で10輪の大型トラック(タイヤ数は16?)が多数走っていました。</p>
(8)	<p>From: <u>和久井博</u> Sent: Wednesday, May 16, 2018 10:50 AM To: <u>JN3 中村 眞和<A8></u> 仙台ですか。良いですね。日本の大都市の中では仙台、松本、宇部…が好きです。楽しんで来てください。牛タンの食べ過ぎには気をつけてください。</p>
(9)	<p>From: <u>JN3 中村 眞和<A7></u> Sent: Tuesday, June 19, 2018 10:33 AM To: <u>JN 和久井 さん(スマホ)</u> Subject: その後いかがですか 過日の仙台に行った時の写真、未完ですが、和久井さんが関心を示していたのでお知らせします。時間がありましたら見てください。 青葉まつりや松島の写真は、まだ整理中ですが、「仙台大観音」の写真をアップしました。地上100m地下21mの建造物(市制100周年と21世紀から)で、108の胎内佛が圧巻。その一部をアップしていますが、それらの佛の頭上の説明文は別に撮影して明るさを調整してはめ込み合成した写真です。拡大すれば読めるようにありますので堪能してください。 Google や Yahoo など「春のたより2018」と検索すれば上位にヒットします。</p>
	<p>胎内佛を見られたか否かは不明であり、返事が無いまま、11日後に逝去された。</p>

完